

退任にあたって

全国曹洞宗青年会
第17期会長

芳村 元悟



→ 昨年の5月、前16期より全国曹洞宗青年会(以下、全曹青)執行部を引き継ぎ第17期がスタートして以来、走り続けた毎日が終わろうとしています。

私達はこれまでの全曹青を意識する一方で、今、そしてこれから私達が必要となるかもしれないことに対して目を向けていくことを期の始まりにあたって着手しました。そのための特別委員会を組織し、管区選出理事の皆様にも多くの助言を頂きながら会則や組織について時間をかけて反芻する作業を行わせていただきました。

また、同年7月には新潟県柏崎周辺地区に甚大な被害をもたらした中越沖地震が発生し、地元宗務所、宗務所青年会、曹洞宗宗務庁、SVAと共に被災された地域への復興支援活動を行わせていただきました。特に地元青年会会長の御理解と青年会会員皆様の御協力を頂き能登半島地震同様進めさせていただいた行茶活動は、避難所生活を続ける大勢の方達への「こころのケア」の実践でありました。

この支援活動が一つの大きな教訓となり、今期に於いて「全国曹洞宗青年会ポランティアガイドライン」として一つの指針を確立すること

となりました。

この数年來、毎年のように発生し多くの被害を与える自然災害に対して私達青年会をはじめ、曹洞宗がどのように対処できるのか、何をしなければならぬのか、このことを改めて問い直し、「敢えて今だからこそしなければならぬ」という強い意志の一步を踏み出すことが出来たのではないかと思っております。

このポランティア活動も含め、第17期全曹青は「スマイル」つながれ笑顔」をテーマとして一つ一つの事業に取り組ませていただきました。全てが笑顔とはいきませんが、私達の思い、行い、言葉が結果として誰かの笑顔になればいい、その一念を忘れることなく歩んで参りました。

全国組織という体ともなれば、思う以上に連携や協力は取れないものなかも知れませんが、人と人との繋がりがあってこそ叶えられることが出来るのも全国という広がりを持った組織の持つ醍醐味でもあると思います。そのためには規約や形式で統制することよりも寧ろ関わりを持つ誰にとつても楽しいこと特別なことに情熱を抱えて取り組む姿勢こそが共通言語となりうるわけで、その特別な時間を大勢の皆様の力添えの基に達成することを特に2年目の期間は費やさせていただきます。

結果として出来る事象以上にそこに結果とする力とその力の結果得られる仲間との出会いや充実感、反省によって見出される次なる可能性、それらが私達が求めたものであり、得られたことでした。自分達が目指したものは形ではなく、一つ一つ手掛けたことが次の目標を見出し動き出す原動力となっていくことにあると言っても過言ではありません。

この2年間にわたる試みには各委員会の委員長による弛まぬ努力が不可欠でありましたし、事実そのパフォーマンスを存分に見せてくれたのではないかと感じております。また、管区理事各師に於かれましても深い理解と強い意見、連携と協力体制を維持していただきました。特に、2年間継続で設置させていただきました特別委員会は多くの変革を生み出す母体となる機能を完遂した結果、第18期発足の基盤となり得ることが出来ましたことは何物にも代え難い成果となったのではないのでしょうか。そして、各曹青会選出の評議員各師に於かれましても評議員会開催時は勿論、諸行事における連絡、協力とご支援を頂けたこと、加えましてこちらからの提案について忌憚のないご意見を賜りましたことは何にも増して心強く感じられたことでした。

御陰様をもちまして第17期は諸事業を敢行し、多くの変革を以てその任を終え、第18期全曹青執行体制へと移行して参ります。

まだまだ未完成であり、まだまだ進化していかねければならない、それが全曹青であろうと思えますし、組織として継続すること、それは一つ一つの進化を弛まぬことにあると思います。その歴史を私の至らなさにより多少汚してしまつた罪悪感拭えませんが、櫻を渡す喜びを現在は全身で感じている次第でもあります。

願わくは、これまでに皆様から寄せていただきました御厚情に増しまして、これからも全曹青をご支援、ご協力、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。退任にあたり第17期全曹青執行部を代表いたしまして感謝と御礼の御挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。